

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
高木 典子			
金3、金4			
添付ファイル			

科目の概要	<p>一生涯に渡る発達過程の中で、特に子どもの発達に焦点をあて、その発達の諸特徴を見ていく。また、発達過程の変化を捉える軸として、今までに心理学研究において見いだされてきた複数の発達理論を紹介し、そこからなぜ保育者・教育者になるために子どもの発達を学ぶ必要があるのかを講義する。さらに、子どもの学びと保育との関連についても紹介していく。</p> <p>科目のねらいは、子どもの発達に沿った保育・教育支援のための基礎（土台）作りであり、授業を通して、発達に関する基本的な専門用語を理解し、以降の学びにつなげていくことも目的としている。</p> <p>発達は、学生ひとりひとりが今まさに現在進行形でその過程のただ中にあるものであり、観念的な知識の獲得のみにならないよう、これまでの自身の発達と関連づけた学修をしていくことが期待される。</p>
授業の内容	<p>第1回 ガイダンス／導入 授業の目的と目標の確認 学修の進め方について、説明 導入：発達とは何か？ 第1章 赤ちゃんのところに引き込まれる ☆この科目専用のノート（B5またはA4のもの。ルーズリーフは不可）を持参すること。</p> <p>第2回 胎児期の発達 胎内での発達過程 第3章 生命が芽生えるとき</p> <p>第3-4回 乳児期の発達 乳児の有能性 身体と運動の発達 第4章 赤ちゃんが世界と出会うとき</p> <p>第5-6回 愛着の発達 愛着理論 第5章 人との関係の中で育つ子ども</p> <p>第7-8回 認知の発達 ピアジェの認知発達理論 遊びの発達 第6章 何から何を学んでいるの？</p> <p>第9-10回 言葉の発達 話し言葉の発達 読み書きの発達 第7章 はじめの言葉はママかマンマ？!</p> <p>第11回 自己認知の発達 自己の気づきと感情の発達 第8章 わたしはわたし</p> <p>第12回 仲間関係の発達 他者の内面の理解 第9章 けんかしても一緒にいたい</p> <p>第13回 子どもを取り巻く環境 メディアと子ども 養育者・保育者と子ども 第10章 おもしろくするためのなるの？</p> <p>第14回 発達理論のまとめ 既出の発達理論の振り返りと代表的な発達理論</p> <p>第15回 まとめと試験について 乳幼児期の発達を支える保育という視点で授業全体を振り返る 第2章 赤ちゃんの心に向き合う</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	<p>①発達理論等の心理学的知識を踏まえて、発達をとらえる視点について理解する。</p> <p>②子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護および教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。</p> <p>③乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</p>
授業の方法	講義形式とする。
成績評価の方法	受講態度と課題(50%)、試験の結果(50%)の総合評価の予定。
教科書・テキスト	遠藤利彦・佐久間路子・徳田治子・野田淳子著「乳幼児のこころー子育て・子育ての発達心理学」有斐閣アルマ 適宜、プリント配布

参考書	塩見慎朗・長尾和英編「愛の子育て 子ども学のすすめ」昭和堂 林洋一監修 図解・よくわかる発達心理学 ナツメ社 太田信夫監修「シリーズ心理学と仕事5 発達心理学」北大路書房 佐々木正美著「子どもの心が見える本ー再びエリクソンに学ぶ」子育て協会 繁多進監修 向田久美子・石井正子編著「新 乳幼児発達心理学」福村出版 岡本夏木他監修「発達心理学辞典」ミネルヴァ書房 森上史朗・柏女霊峰編「保育用語辞典」ミネルヴァ書房
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	毎回の授業終了時に、次回の授業内容と関連した課題（専門用語の調べ学習）を課す。 授業内容の理解を促進するために、教科書を一読して授業に臨むこと。
履修上の留意事項	やむを得ず授業を欠席する場合には、必ずメールにて連絡すること。
オフィスアワー	水曜日の昼休み
担当教員への連絡方法	takaki_aoyama@yahoo.co.jp（@は半角に） 件名にクラスと名前を入力すること。
その他	